

毎日新聞の連載が
11年めに入ります。
ありがとうございます。
これからも
どうぞよろしく。



昨年暮れに西成の障害者支援NPO「W・I・N・G」路(みち)をはこぶ」と伊丹の「クロスロードカフェ」で開いてもらった原画展は、ゆりあとの暮らしを毎日新聞に描いて10年目のいい記念になりました。ご来場くださったみなさん、本当にありがとうございます。新聞の切り抜きを手に遠方から訪ねてくださった読者さん、ゆりあがこれまでお世話になった療育施設や市役所の職員さん、学校の先生、友達…。200人を超える方々からのメッセージを何度も読み返し、改めてつながっているうれしさを実感しています。

中でも心に残ったのは、20年にわたって尊敬すべき活動をされてきたW・I・N・Gの菅野真弓さ

んが「私ね、今まで『重い障害のある人たちは、自分では何もできないんです。だから支援を!』って訴えながら、『何か違う』ってずっと思い続けていたの。今回、林さんの絵を見てわかったのよ。『支援がないと何もできない』じゃない。『支援さえあれば、何でもできる』って言えばよかったのね。ゆりあちゃん、障害が重くても学校に行って、友達作って、何だってできているんだものねえ」と言ってくれたことでした。

今年、ゆりあは「学校」を出て次の一歩を踏み出します。ドキドキですが「念ずれば花開く」。今後とも、どうぞ、よろしくお願います。

(伊丹市・林 やよい)

くるまいすまいる

その後のゆりあ絵日記

